

## 不易と流行 ～掃除について考えてみました～

いつの間にか日中は汗ばむような季節となりました。

4月1日に新元号「令和」が発表され、5月1日から新しい時代が始まりました。思い起こせば、「平成」のはじまりは、冷たい1月に昭和天皇が崩御されてからの改元でしたので、世の中全体が、悲しみと重苦しさに含まれた空気感であったように覚えています。一方、今回は、暖かい4月30日の生前退位（譲位）ということで、TVニュースや新聞報道などをみますと、「Beautiful Harmony＝美しい調和」の時代が、明るい雰囲気の中で前向きに受け入れられたように感じました。

さて、新しい時代を迎え、学校では来年度から始まる新しい教育内容（課程）への移行の最終段階に入っています。時が進み、世の中が変わるにしたいが、求められる資質・能力も少しずつ変わってきます。新しい教育内容（課程）では、これからの国際化・AI化に対応すべく、中学年以上の外国語教育やプログラミング教育の推進が新たに加わりました。外国語については、本校では昨年度から3・4年生は週1時間、5・6年生は週2時間学習していて、今年度は専科の教員が授業しています。このように世の中のニーズに適用していくために、新しく取り入れる必要がある学習や活動を「流行」とすれば、世の中が変わっても変えてはいけない学習や活動が「不易」とよばれるものです。今年度の本校のスクールプランは、不易と流行ともに大切にしている内容になっていると思います。先日の集会では、私が不易の1つとして考えている「掃除」について、子ども達に話をしました。

その① 年間3000万人が訪れる日本最大のテーマパーク、「東京ディズニーランド（TDL）」。

楽しいショーやわくわくドキドキするアトラクション、愛らしいキャラクターが、老若男女を問わず魅了します。そんな夢の国が最も大切にしているのが、『掃除』だそうです。キャストと呼ばれる係の従業員が24時間体制で、開園中は通路は15分おき、トイレは45分おきに巡回して、「そこで赤ちゃんがハイハイできる」状態にまできれいにするそうです。ゴミや汚れが目立つと、お客さんは夢と魔法の世界から現実に引き戻されてしまいますから、TDLではおもてなしの精神の根幹として、掃除を位置付けているのです。世界一安全で清潔なパークの秘密は、掃除に隠されていたのでした。



その② 全国の学校で毎日のように行われる「子ども達による学校清掃」は、我が国では古くから実践され、教育活動の1つとして浸透していますが、世界的にみると児童生徒が掃除を行っている国よりも、専門業者が担当している国の方が多いようです。また、行っている国の中には、経費削減の目的でしている国もあります。日本では、掃除は場を清める、心を磨くことを目的に人格形成にも大きく影響を与えてきましたが、この日本式学校掃除が、近年イギリスやシンガポールなど海外でも注目されています。



特にエジプトでは、特別活動として「公共」に対する意識や仲間と協力することの大切さを理解することを目的に、積極的に取り入れられています。

このように、学校掃除は協調性や自立心、公共性を高める教育的効果があり、日本は元より世界に通用する教育活動で、今後の教育改革等により廃止されることのないようにしたいと考えています。教育において変えてはいけないもの、なくしてはいけないもの、その1つが「掃除」であると思います。今日も大野っ子たちは、心磨き、自分磨きに励んでいます。